

がんばれブロック舗装



2024年度のインターロッキング舗装の全国施工実績が、ついに200万㎡を下回った。ピークは96年度の863万㎡なので、当時のわずか5分の1の水準だ。大阪・関西万博という国家的イベントで相当量の施工があったにもかかわらず、全国の施工実績を底上げするには至らなかった。



欧州や韓国では近年、透水性インターロッキングブロックが雨水対策やヒートアイランド緩和の手法として都市政策に組み込まれつつあり、生活道路や歩行者空間で導入が広がっている。一方、日本では未だに高コストな特殊舗装というイメージを払拭できず、アスファルト舗装が、公共空間の標準の地位を保っている。

CO₂排出量の観点からも、ブロック舗装は見直しされるべきだ。アスファルト舗装は高温加熱を要するものの、初期施工時のCO₂排出量は相対的に少ないとされる。これは材料調達から施工までの工程が短く、機械施工が進んでいるためだ。

しかし、ブロック舗装をライフサイクル全体で見た場合、再敷設が可能で材料ロスも少なく、維持管理に伴う排出量が抑えられるため、長期的にはアスファルトを上回る低炭素性を示すという試算もある。実際、米国ICPI(現・CMHA)のライフサイクルアセスメント(製品の原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでの全過程における環境負荷を定量的に評価する手法)比較では、透水型ブロック舗装(PICP)は11年目以降のCO₂排出量がアスファルト舗装に比べ30%以上少なくなり、50年という長期視点では、むしろアスファルトを上回る環境性能を発揮することが、比較評価により明らかになっており、インターロッキングブロックは脱炭素社会に適した素材と言える。

しかし、日本の脱炭素ロードマップやグリーンインフラガイドラインにおいて、ブロック舗装はほとんど話題にならない。背景にはライフサイクルアセスメントに基づく比較指標の整備が遅れていることがある。舗装材ごとのCO₂排出量を一律の基準でみえる化し、選定根拠とする仕組みがなければ、設計者や発注者は「安くて手間のかからない既存材」に流れてしまう。

ブロック舗装の環境性能が設計・発注制度の評価軸に組み込まれない限り、施工実績が回復することはないのではないかと。

道路空間でも脱炭素の議論が始まった。透水性や遮熱性を備え、部分再利用が可能で、都市景観とも調和するブロック舗装を、単なる景観材としてではなく、「気候対応型の社会資本」として政策に組み込む視点が必要だ。200万㎡割れは、業界にとって厳しい現実だが、その役割や将来像を問い直す契機ともなり得る。一方、国や自治体には脱炭素化社会の実現に向けて、道路政策では舗装材の環境性能を客観的に評価し、設計基準に反映できる制度整備を求めたい。「気候変動への対応は、足元の設計から」だ。

会計検査



『公共工事と会計検査』の改訂8版より「会計検査こぼれ話」をご紹介します。
一息ついて読んでいただければ幸いです(^-^)/

著者の市川 啓次郎(いちかわ けいじろう)氏は昭和19年生まれ。
元会計検査院 国土交通総括検査室長を務められていました。

会計検査こぼれ話：同僚調査官も被害に

会計検査時、調査官は次から次へと様々な質問を発して、受検者を悩ませます。まして、細かなミスでも見つけられ、それをネタにいつまでもねちねちしぼられたりすると、担当者のストレスは倍増します。

ところが、検査報告局委員会ということになると、調査官のこの立場は一転します。調査官は委員会において自ら手がけた指摘案件を資料に基づいて説明し、これに対する局長始め各委員の質問に答えるということになります。攻める側から守る側に立場が変わります。

この局委員会で重要に役割を果たすのが、覆審委員、覆審幹事です。覆審というのは、字のとおり「覆して審議する」の意味です。他課の副長、調査官が委員及び幹事に任命され、調査官の提案した事案の内容が検査報告に掲記するにふさわしい内容のものであるか、また、事実関係等が正しいかどうかを厳格に審査し、その結果を委員会に報告します。



審議に際してその意見が重要な役割を果たすのは当然です。会計検査の際、受検機関の人たちは、自分たちの所へ入る調査官がどの人に当たるか気をもみますが、局委員会では、提案する立場の調査官が自分の案件を審査する覆審幹事が誰に当たるか気をもむのです。

ある年の委員会でのことです。提案資料に書かれている凶面の表現をめぐって調査官と覆審幹事の間で議論になりました。出席する委員たちは現地を知っているのは調査官だから、調査官の主張が正しいのではないかと聞いていました。局長もそうした委員会の雰囲気や代弁して、「幹事はまるで現地へ行ってきたかのような言い方をするねえ」といいました。すると、覆審幹事は「ハイ、先日の休みに私も指摘の現場へ行って見て来たので間違いありません」というのです。

これには委員会の各委員も一瞬沈黙してしまいました。

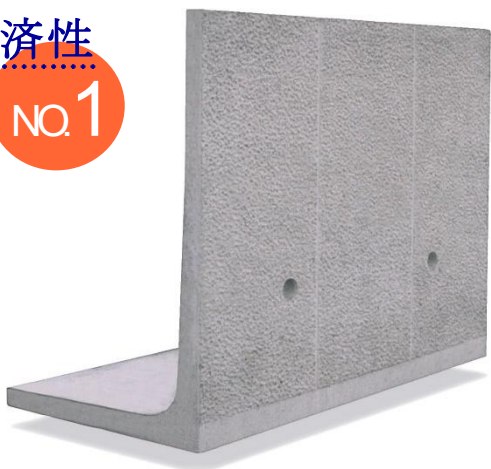
当時、この幹事役の調査官のねちっこい検査に受検機関の人たちは辟易させられていたのですが、同僚調査官もその被害にあってしまったのでした。(K)

レオちゃんの製品紹介コーナー

◆◇ L型擁壁 KOOGE-WALL ◇◆

経済性

NO.1



こんにちは！ライオン通信のレオちゃんです♪

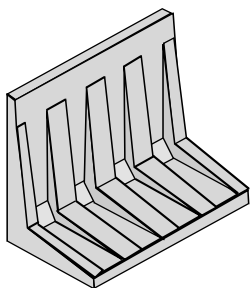
今月は、KOOGE-WALLのご紹介です。
公共工事はもちろん、宅地造成や田んぼの畦道整備など幅広く
ご使用頂いています。
施工も早く、見た目もすっきりとご好評いただいています！

今回は、製品の特長と施工方法などをご紹介しますので、ぜひ
ご検討ください！

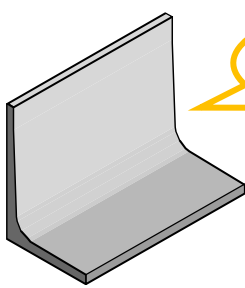
従来のL型擁壁の擁壁設計は『試行くさび法』ですが、KOOGE-WALLは、『改良試行くさび法』を適用しています。改良試行くさび法は、従来のL型擁壁に比べ底版幅を8~20%小さくできるため、製品の軽量化によるローコスト化にもつながります。

特長

- 土圧理論に改良試行くさび法を適用することで軽量化を図っており、経済性・施工性に優れています。(試行くさび法にも対応可能です。)
- 支持地盤が粘性土でも適用が可能です。
- 底版幅が従来のL型擁壁の製品に比べて小さいので、基礎工や床掘りの規模が軽減されます。
- 道路が曲線であっても適用が可能です。
- リブ構造でないので、任意の長さの短尺製品が製造可能です。

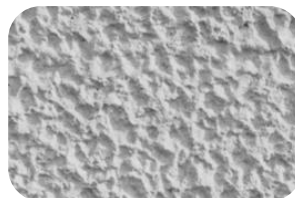


(他社製品)



(当社製品)

裏面は転圧しやすい
スッキリ構造！

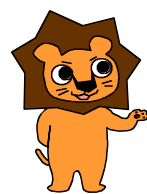


表面拡大

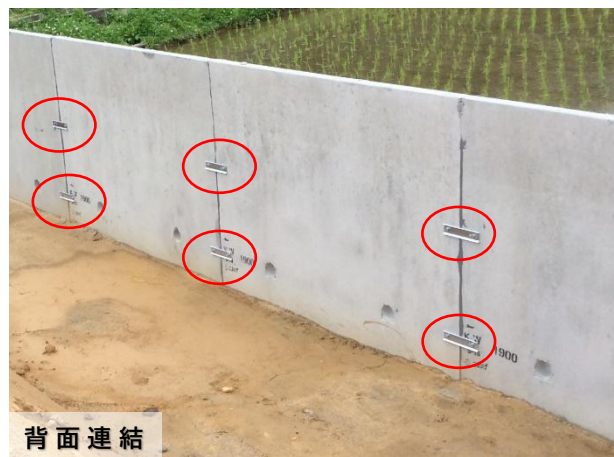
- 表面は小ハツリ模様でお客様にご好評頂いています。
- 製品間を連結金具で結合するので、沈下による段差や目地違いを防止できます。



現場：八頭町

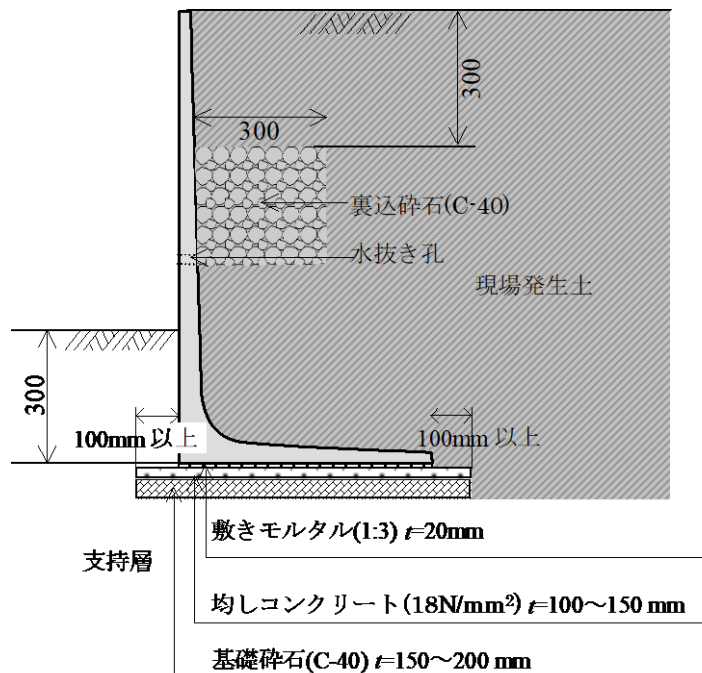


ガードレール基礎 下部に使用



背面連結

施工方法



- ①床掘
- ②基礎砕石・基礎コンクリート(均しコンクリート)・敷モルタルを敷設
- ③製品据え付け
その後、根入れを確保し製品天端まで埋戻し

※根入れは現場条件、製品高さによって30cm~50cm以上確保して施工してください。



(10mあたり)

【本体標準施工歩掛り】

名称	規格	単位	数量			摘要
			H ≤ 1.5m	1.6m ≤ H ≤ 2.5m	2.6m ≤ H ≤ 3.0m	
KOUGE-WALL		個	5			L=2.0m/個
世話役		人	0.30	0.34	0.39	
ブロック工		人	0.30	0.34	0.39	
普通作業員		人	0.90	1.02	1.17	
ホイールクレーン賃料	油圧式	日	0.30 (油圧式 4.8t)	0.34 (油圧式 15t)	0.39 (油圧式 20t)	
諸雑費		式	1.0			労務・クレーンの10%

※高さによって歩掛りが異なりますのでご注意ください。



豊岡市/市道辺坂旧県道線道路補修工事



鳥取市/民間工事

コーナー部や短尺部分には、小ハツリ模様の現場打ち型枠材を使用することで、製品と同じ模様で施工可能です！

☆☆ 編集後記 ☆☆

先日、兵庫県丹波市で観測された気温 41.2 度。もはや「暑い」を乗り越えて、外に出るのをためらうほどの気温です。

いつまでこの暑さが続くのか…早く涼しくなってほしいものです。

炎天下のなか日々現場で汗を流されている皆さま、熱中症には十分ご注意ください。

体調第一で、暑い夏を乗り切りましょう。



<URL><https://kooge.co/>

<e-mail>info@kooge.co